

いまや

コーヒーは

日本人に

なじみの深い

飲み物のひとつです



オープンカフェ

なども

人気



コーヒーは

十六世紀頃

トルコなどで

民衆に広がり

やがて十七世紀頃

ヨーロッパに

伝わったようです

日本に

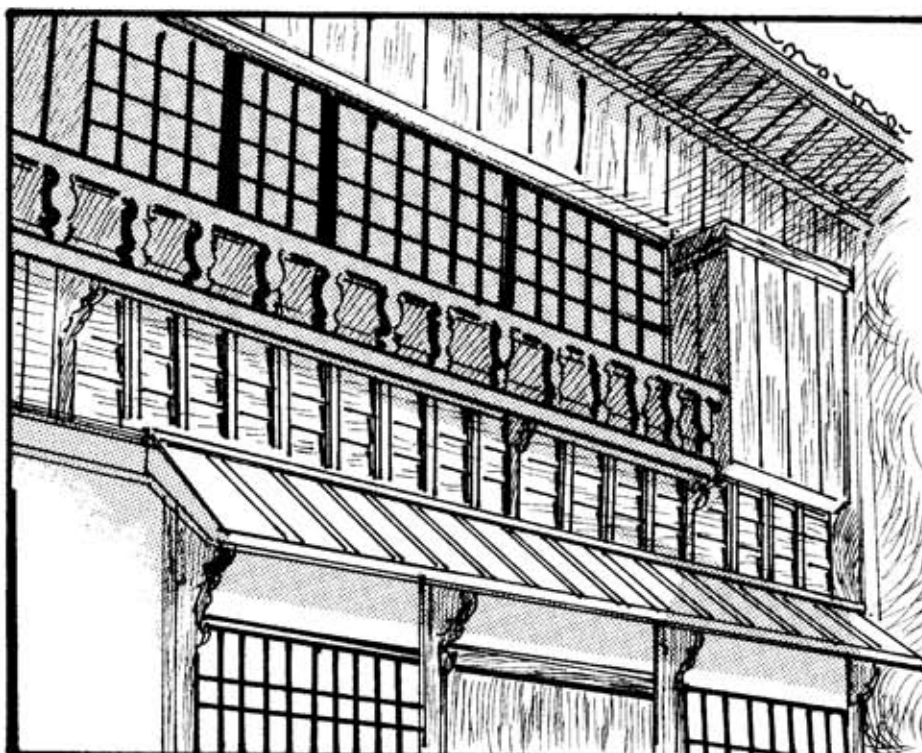
コーヒーが

伝えられたのは

一六〇〇年代

長崎の

出島といわれています



〈オランダ商館〉

出島には
 特定の人しか
 出入りができなかつたため
 コーヒーを飲むのは
 主にオランダ通詞や
 出島通いの遊女たちでした



出島

にがっ

こんな
 まずいものを
 外国人は
 うまいと思うのか

あの
 コーヒーを
 いただけますか
 砂糖も入れて
 ください

オランダ通詞(通訳)

商館長





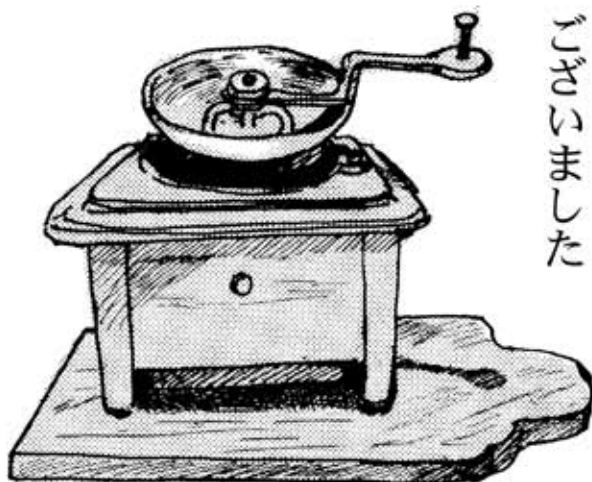
この珍しい飲み方は
季節により
芙蓉花
夾竹桃なども
用いられました



蘭の
花びらが
ゆらゆらと
なんとも
イキで
ございますなあ

司馬江漢(画家)
のように

自らコーヒーマルを
つくったりする者も
ございました



(長崎歴史文化博物館蔵)

江漢が
工夫した
コーヒーマル
「オランダ茶臼」

文政6年

(二八二三年)

オランダ商館の医師として
来日したシーボルトは



コーヒーは
長寿をもたらす
良薬ですよ

コーヒーの効用を
紹介しています

安政2年

(一八五五年)

長崎奉行所

西役所に設立された

海軍伝習所

勝麟太郎(海舟)をはじめ
伝習生たちは

勉学のあいまに

コーヒーを飲んでいたようです



明治維新後

西洋料理店で

食事とともに

コーヒーを飲む

習慣が広まります

長崎には

ベルビューホテルや

ジャパンホテルなど

洋式ホテルが次々と開業

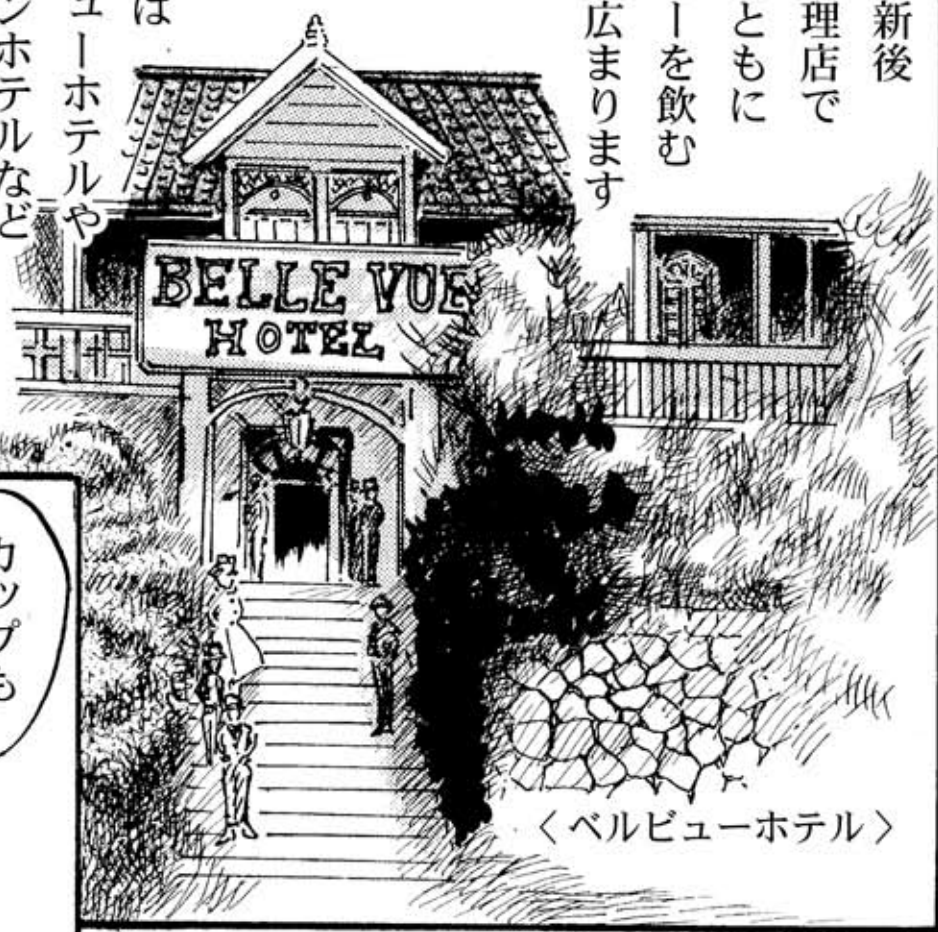
また外国人の

避暑地として人気があった

雲仙にもホテルがつけられます

外国人のおもてなしには

もちろんコーヒー



東京でも

明治21年(一八八八年)

下谷黒門町に

「可否茶館」が開店
コーヒーさかん

これが日本珈琲店

第一号で

この主人

鄭永慶は

長崎生まれ

昭和35年(一九六〇年)には

国産初の

インスタントコーヒーが

販売されて

ますます広がり

今では

缶コーヒーも普及

さまざまな形で

コーヒーは

日本人に

親しまれています

